

一般社団法人

千葉県言語聴覚士会ニュース



NO. 51 2016年7月23日

目 次

会長挨拶 1	きこえに関するひとくちコラム 12
第5回総会報告 3	ワーク＆ライフバランスコラム 13
学術局より 4	事務局から 14
各委員会・作業部会から 6	各種おしらせ 16
施設紹介 10	理事会・委員会等議事録 17
臨床こぼれ話 11		

◇ 会長あいさつ ◇

「危機！ それとも杞憂か？」

吉田 浩滋 (国際医療福祉大学成田保健医療学部)

いよいよ代表理事としての最後の一年になった。法人格の取得以降、C-RATの結成、千葉県理学療法士会や千葉県作業療法士会との連携推進会議の立ち上げ等があり、それぞれが確実な一歩を踏み出している。言語聴覚士という仕事を知りたい、という高校生へ職場体験を提供する仕組みも今年から動く。

いろいろなことがすすんできているが、それでよいのだろうか。私には二つの危惧がある。その一つは、いまだに言語聴覚士の周知がすすまないという事実。もう一つは、超高齢社会における言語聴覚士の役割にかかる議論が低調なこと。

■一つ目の危惧

大学に籍を置く身となると、高校とのやり取りが増えたが、そのなかでは、まだまだ言語聴覚士の認知度が低いことを痛感する。最近は人気俳優と吃音の若者が登場するドラマ「ラブソング」が話題で、関係者間では盛り上がっているという話を、ある学術集会の吃音分科会で聞いたが、そのドラマの視聴率は低迷している。ネット上には「話が暗い」から見ないであろうと予測する情報や、この予測が当たったという情報が多く見られるし、内容は言語聴覚士も出演してはいるが、これ以上に臨床心理士という民間資格だけが目立っている。視聴率だけが判断材料ではないが、視聴者の多くは見ない、という選択を行っている現実を、分科会で興奮気味に話していた関係者は理解しているのだろうか？ その事実を無視して、関係者は自分にとって都合のいい情報だけを偏愛しているのではないだろうか？ 私は、このような内輪だけで盛り上がる体質が、もしかしたら、言語聴覚士の認知度を上げられずにいるのかもしれない、と考えている。はっきり言えば、言語聴覚士というサイロのなかで、自分たちの頭上に広がる世界だけを見ているのではないか、と思えて仕方がない。

実は、このサイロ化は大変恐ろしいことで、ソニーの凋落も、ソニーが分社化によってサイロ化した

ことに原因がある、と私は考えている。なぜ、ソニーは凋落し、アップルが優位にたったのか？ 理由は簡単。アップルは意識して、サイロ化することを防いできたからである。詳しく知りたい方は、フィナンシャル・タイムズ紙アメリカ版編集長が書いた『サイロ・エフェクト』（文芸春秋社刊）を読むことをお薦めする。

■超高齢社会という現実に向き合えているか？

そして、もう一つの危惧が、超高齢社会に対する取り組みである。協会は「地域包括ケア」や「地域ケア会議に言語聴覚士が参加」することを推奨する。しかし、多くの言語聴覚士が医療機関に属している現状では、どこにその人材を求めるべきなのだろうか。介護保険施行前は、自治体が機能訓練事業を行い、身体障害者福祉センターまで持ち、そこでリハ職を採用し地域リハを行っていた時代もあったが、介護保険制度が始まると、構築してきた仕組みはことごとく解体されてしまった。かつて、私も機能訓練事業に身を置き、その消長を見てきたので、よくわかっているつもりだ。そして、その結果として自治体からは保健領域や高齢者領域で働く言語聴覚士が少数になってしまった。このような状況のなかで、どこの言語聴覚士を地域ケア会議に出せばよいのか。それは医療機関や老健等の介護関連の施設となるが、果たして可能だろうか。有給休暇を取って出かけているところもあるが、当面はそうせざるを得ないであろう。県士会員の皆さんには、これは自分ではない、他の言語聴覚士が対応するであろう、と思っているのだろうか。しかし、これは他の方ではなく、確実に「あなた」の役割なのだ。

■マインドセットを変えることが求められている

もしかしたら、今までのマインドセットを変更する必要があるかもしれない。今までのマインドセットとは、政治学者・神島二郎が日本近代の政治・社会を分析するうえで有効な視点として唱えた「単身者主義」であろう。これは「独身主義」ではなく、「家族やコミュニティよりも会社や国家を重視し、バラバラの個人がそれぞれの仕事に邁進する近代日本の生き方」であり、これによって成り立つ社会を「単身者本位社会」と神島は呼んだが、私は、このようなマインドセットから降りないと、地域のために働くことはできないと考えている。当然ながら所属機関の長も、同様に考えないと地域に人材は出ていかないであろう。

また、地域に出ていく際は、言語聴覚士の仕事は△△と○○なので、これを専門的に行いたい、という願いも取り下げた方がいい。災害のたびに被災地支援を行っている言語聴覚士は、自分の専門性に拘る言語聴覚士に対する被災地での「言語聴覚士は使えない」という評価を変えようと奮闘しているが、災害が起きたたびに「言語聴覚士の専門性を發揮する支援を行ってください」という激励を今でも受けるそうだ。こんな声が寄せられている実態こそは、まだまだ言語聴覚士が周りを見ていない証左ではなかろうか。これについては、熊本に災害支援に行った言語聴覚士が「傾聴」が大切だったと語っていたことにヒントがある。まずは地域にあるニーズを読み取るためにも、私は○○ができますではなく、あなたの願いを聞かせてください、と時間をかけてかかわることが重要であることを示しているし、このことが理解されてきてることには期待がもてる。

今、確実に言語聴覚士の役割は増えつつあるが、そこに言語聴覚士が出ていかなければ、いずれ言語聴覚士に対する期待は消えていくであろう。ぜひ、自らの活動と出番を地域のなかで作って欲しい。上司にも内容を説明し、外に出る機会を広げて欲しい。そうしないと言語聴覚士の職域は広がってはいかないだろう。

★★ 一般社団法人千葉県言語聴覚士会 ★★

★★ 第5回総会報告 ★★

平成28年5月29日(日)、第5回一般社団法人千葉県言語聴覚士会定時総会が開催されました。会員の皆様のご協力により、議事を円滑に進めることができました。ご協力に感謝いたしますとともに、総会の概要をご報告いたします。

日 時：平成28年5月29日(日曜日) 13時00分～13時35分

場 所：千葉市文化センター9階会議室Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

議 長：古川 大輔(君津中央病院)

副議長：勝又 綾子(緑が丘訪問看護ステーション)

書 記：星野 直(市川東病院)

宮阪 美穂(東京医薬専門学校)

会員数及び出席者数：議決権のある会員総数 379名

出席会員数 225名(当日出席31名、議長委任194名)

I. 協議事項

1. 第1号議事 平成27年度活動報告に関する件
2. 第2号議事 平成27年度会計報告に関する件
3. 第3号議事 平成27年度監査報告に関する件
4. 第4号議事 平成28年度活動計画案に関する件
5. 第5号議事 平成28年度予算案に関する件

以上の件が提出され、賛成多数により承認されました。

II. 報告事項

- ・規則の改正について

以上の件が報告されました。

(総務部 阿部 翠)





◇ 学術局より ◇

学術局 酒井 譲

1. 平成28年度第2回研修会のお知らせ

平成28年度第2回研修会では、摂食嚥下障害委員会、地域リハビリテーション委員会と共に研修会を開催いたします。また、研修会終了後には、地域リハビリテーションをテーマに、千葉県地域に勤務するSTのネットワーク作りを兼ねて、情報交換会を開催いたします。会員・会員外の方もお誘いあわせの上、是非、お申込み下さい。

*日時：平成28年9月18日（日） 13：00～16：55

*会場：順天堂大学医学部附属浦安病院 外来棟3階講堂

*定員：100名

*参加費：正会員・準会員 無料

会員外 2000円、学生及びPT・OT県士会員 500円

*内容

I. 講演：「嚥下リハビリ～実技を踏まえて～」 13：05～14：35

講師：独立行政法人 国立病院機構 千葉東病院

歯科医長 大塚 義顕 先生

II. 講演：「地域包括ケアのためにSTができること」 14：50～16：20

講師：永生会在宅総合ケアセンター

言語聴覚士 山本 徹 先生

III. 情報交換会 16：25～16：55

*申し込み方法については、同封の申込書をご覧下さい。

2. 平成28年度第1回研修会報告

平成28年5月29日（日）に、千葉市文化センターで平成28年度第1回研修会を開催しました。今回は、化学療法研究所附属病院の武原格先生をお招きし、「脳損傷者の自動車運転再開支援」というテーマでご講演いただきました。参加者は81名（会員65名、会員外16名、懇親会参加者38名）でした。研修会の概要と、アンケート結果の一部を紹介します。

◎研修会の概要◎

演題：「脳損傷者の自動車運転再開支援」

講師：化学療法研究所附属病院

リハビリテーション科部長 武原 格 先生



概要：脳卒中や脳外傷などの脳損傷者が、社会復帰の際に自動車運転を再開することは少なくなく、今回、脳損傷者の自動車運転再開までの流れ、運転再開に必要な高次脳機能評価基準、山積する問題点などについて、武原先生の研究内容も含め、ご講演いただきました。

脳損傷者の自動車運転再開までの流れは、運転免許センターにて運転適性検査を受け、その結果により無条件適格、条件付き適格、不適格に判断されますが、適性検査に際して主治医の意見書が求められ、疾病（合併症）、身体機能、高次脳機能などの評価から、総合的に判断を行っており、現在のところ、明確な評価基準はなく、視野欠損や失語症など、どこまでが許容範囲であるのか、運転免許センターや応対する人によってその対応が異なるため、今後の検討課題であるとのことでした。疾病と自動車運転は、現代社会において重要な課題の一つであり、失語症や高次脳機能障害に対する対応を求めるSTにおいては、自動車運転再開支援についても、活躍の期待される職種であると、ご講演いただきました。また、講演終了後の質疑応答の時間を多く割いていただき、視野欠損の影響、運転頻度や事故の種類、セーフティーナビでの評価、高次脳機能評価、認知症への対応についてなど、活発な意見交換が行われ、大変有意義な研修会となりました。

アンケート結果

①ご感想をお聞かせ下さい。

【回収数：60名】とても良かった：59名、普通：1名、期待していた内容と異なった：0名

未記入：2名

具体的に（一部抜粋）：

- ・運転再開の目安が明示されていて、大変勉強になった。
- ・運転に必要な検査や基準値が分かり、アドバイスしやすくなった。
- ・検査結果から危険性が高いと思われても、根拠をどう説明していいか困ったため、今回講義を聞けて良かった。
- ・検討が難しいテーマでもあるので、評価の内容が聞けて良かった。
- ・検査結果の内容から自動車運転再開に向けて具体的に理解することができた。
- ・現場で役立つテストバッテリーの組み方や対応の仕方を学ぶことができた。
- ・色々な制度が聞けて良かった。
- ・分かりやすく、臨床に活かせる内容だった。
- ・運転再開された方の事故数やデータなど、勉強になった。
- ・評価の際、どのような観点をもつたらよいか、分かりやすかった。
- ・今まで、少しでも危険と考えられる人は運転しない方がいいという考え方を持っていたが、考え方
- が少し変わった。

・ S D S Aについての説明、自動車教習所など他機関との連携の仕方など、時間があればもっと聞きたかった。

②今後の研修会や当会の活動について、ご意見などがありましたらお書きください。

【複数回答可】

形式：講演 45名、症例発表 20名、シンポジウム 6名、グループワーク 7名、相談会 2名、領域ごとの研修会 9名、その他 1名

内容：失語症 29名、高次脳機能障害 39名、摂食・嚥下障害 32名、音声・構音障害 21名、吃音 9名、言語発達障害 8名、聴覚障害 2名、認知症 18名、職場の悩み相談 3名、子育てとの両立について 3名、復職について 11名、接遇やマナー等 1名、その他 2名（障害受容等リハビリにおける心理的サポートについて。W A I S-IIIなどの神経心理学的検査の解釈の仕方について。）

具体的なご意見等（一部抜粋）：

- ・失語症、運動障害性構音障害の講演が聞きたい。講演や研修会を行っているところが少ない印象を受ける。
- ・子育てにつき非常勤で働いているが、STの情報が少ないため、近くで働くSTとの交流などができるといい。

3. 学術局より

[研修会を終えて]

研修会では、会員の皆様のみならず、ST以外の職種や会員外の先生にも多くご参加いただき、また、研修会後の懇親会にも、武原先生を含め、多くの先生にご参加いただき、研修会の内容から日々の臨床における疑問など、活発な意見交換が行われました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。皆様の臨床の一助になれますよう願っております。

[研修会の症例発表者募集]

当会研修会での症例発表者を募集します。日頃の臨床で悩んでいる症例などありましたら、是非ご検討ください。皆様の積極的な提案をお待ちしています。ホームページにお問い合わせください。また、会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会も開催されています。是非、ご参加下さい。

◇ 各委員会・作業部会から ◇

◎◎◎生涯学習プログラム基礎講座・専門講座作業部会◎◎◎

今年度も、一般社団法人 日本言語聴覚士協会、生涯学習プログラム基礎講座・専門講座の千葉県版を実施いたします。基礎講座全ての6講座と千葉県独自の1講座、さらに専門講座1講座と全8講座を2日間で行います。

専門講座は聖隸クリストファー大学リハビリテーション学部 言語聴覚学科教授の柴本 勇 先生による「臨床力をあげる摂食嚥下訓練」を実施いたします。現在、STにとって摂食嚥下の臨床の力を磨くことは

急務となっております。柴本先生に即実践につながる摂食嚥下訓練の講義をしていただきます。

生涯学習プログラムは、まだ経験の浅いSTから経験を積まれたベテランSTまで研修が可能な企画となっております。また、認定言語聴覚士の受講資格には生涯学習プログラムの修了証が必要です。この機会に是非ご参加ください。

日 時 : 平成28年11月20日(日) ・ 11月23日(水・祝)

会 場 : 千葉市民会館 3F 特別会議室2

詳しくは同封の案内状をご覧の上、当会ホームページから(申込み開始:9月1日 予定)お申込みください。

多くの皆様の参加をお待ちしています。

(生涯学習プログラム作業部会 斎藤 公人)

◎○◎災害リハビリテーション委員会より◎○◎

「熊本災害支援報告」

災害リハビリテーション委員会 平山淳一

この度の熊本地震により被災されました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

会員の多くの方々が報道等で熊本地震における被害についてご覧になっている事と思います。発災当初より、JRAT(大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会)本部が東京田町の日本理学療法士協会本部に設置されました。当会からもJRAT東京本部にて派遣チームの日程調整・JMAT(日本医師会災害医療チーム)への登録手続き・JRAT熊本本部との連絡調整などの後方支援に、次の方々がボランティアとして従事しました。

4月25日、5月19日 宇野 園子氏 5月3日、5月4日、5月5日 岩本 明子氏

5月21日、5月28日 藤井 貴裕氏

現地への避難所支援としましては、C-RATからは県内6つの回復期病院から計10チームが熊本へ派遣されました。その中で、私は5月16日から4日間、C-RAT第8班として医師1名、PT2名と共に4人チームで現地入りし、避難所支援を行ってまいりましたので、ご報告させていただきます。

私が支援させて頂いた熊本県御船町では、発災から1ヶ月が経過し、避難されている方々も避難所から仕事に行ったり、再開したデイサービスへ行ったりと、日中は多くの方々が外出されていました。避難所に残っている方の中には、避難した時には歩けていたのに1ヶ月で立ち上がりさえ困難になってしまった方や、周りに知人もなく孤立された高齢者の方など、様々な問題を抱えている方が散見され、そういう方へ生活支援を行ってきました。

避難所支援を通して、STらしい活動が出来たという実感はありません(同行したPTも、同様の感想を漏らしていました)。委員会等で災害リハ支援を考えていた時は、「失語症の方へ云々」とか、「嚥下障害者に対して云々」とか考えていたのですが、実際支援を行ってみると、少なくとも今回私が入った避難所ではそういう方にお会いする事はありませんでした。一方で、発災初期や避難所によっては、STが摂食嚥下のアセスメントを行ったという報告もあり、発災からの時期や避難所によって大きく異なることを感じさせられました。

私が今回経験した中で、重要だったと感じたのは避難者への傾聴でした。避難所内の周りの方が皆外出し、独りきりになっている高齢者に話しかけ傾聴する事で、その方が笑顔を見せてくれる事もありました。また、傾聴を行っていく中で、現在避難所生活の中で起きている様々な問題を発見する事ができ、得られた情報を行政の方や保健師等関係各所へ伝達・共有し、検討を進めることで避難所生活の改善が図られていくのを目にする事が出来ました。

発災からの時期により支援の形やニーズは変化し、一概には言えませんが、ST が災害リハ支援を行う際、専門分野のみを前面に押し出し過ぎると、自らの活動範囲を狭めてしまうのではないかと感じます。現場で求められている事に対して、なんでも力になりますという姿勢で臨むことが必要であり、その為に医師や PT、OT と共にチームで活動し、避難者・避難所の生活全般を支援するという生活リハ的な関わりや発想が大切であると感じました。

〔講習会のお知らせ〕

災害リハビリテーション委員会では、PT・OT 各士会の災害リハ担当者と合同で本年度中に「リハ職として動けますか？～あなたの地域で災害が起つたら～」(仮称) と題した講習会の開催計画を進めております。会場は東京湾岸リハビリテーション病院を予定しておりますが、その他詳細が決まり次第、当会ホームページやメルマガ等でお知らせ致します。災害リハや支援ボランティアにご興味のある方は、是非参加を御検討ください。

◎◎◎第7回訪問リハ・地域リーダー会議報告◎◎◎

訪問リハビリ実務者研修会実行委員会 小野 幸男

去る平成28年5月20日21日、お台場のタイム24ビルにて『第7回訪問リハビリテーション地域リーダー会議』が開催され、当会代表として訪問リハビリテーション（以下、リハビリ）実務者研修会実行委員会の小野が千葉県理学療法士会、千葉県作業療法士会の各代表と共に参加して参りました。

1日目は、第1部「活動報告等」と訪問リハビリ振興財団の各班の報告が行われました。

第1部では、「協会組織と振興委員会、都道府県士会の位置づけと協力についてのお願い」、「地域リーダー会議の目的」、「振興財団について」、「立体的研修会のイメージ」、「制度化に向けた方向性」について松井人事務局長からお話をありました。特にオランダのビュートゾルフチームという看護師による在宅での訪問看護が2007年から稼働開始し、現在はリハビリを加えたビュートゾルフプラスが稼働しているという事でした。それは、看護とリハビリの連携が地域包括ケアシステムにおける要となる。リハビリは評価とアセスメント（生活自立度の予後予測の見立てと、関わり方の具体的方法の提案→ケアの提供・アドバイス、中重度の利用者には必要に応じリハビリ継続）が求められている。また、地域のかかりつけ医との連携によって、自立支援の視点から地域医療の充実促進を支援していく事が大切となるという内容でした。

次に、復興特区の訪問リハビリステーションの利用者増、昨年度に行われた、かかりつけ医やケアマネジャーのアンケートから訪問リハビリステーションは必要という声が大きかったという報告がありました。

最後に、平成30年度の医療・介護の同時改正では訪問看護ステーションに訪問リハビリの実施機関

として追加、検討されている地域包括ケアステーションにリハビリ専門職の配置等もリハビリの職域拡大のために検討事項とありました。

2日目は、第2部「事例収集について」、第3部「平成28年度実務者研修会について」の各講義が行われました。

第2部では、調査班より昨年度収集した事例をまとめた事例収集を作成中でこちらを国に働きかけていきたい事、今年度も新しくフォーマットに沿って記入し、引き続き事例収集に協力をお願いしたいとありました。

次に研修班より「活動・参加につなげる=人としての復権」である。そのためにはストレングスアプローチ（「強み」生活や人生に有利に働く要因）をし、強みを活かして、弱みをコントロールし、生活課題を解決する事で活動・参加につなげていけるのではないかと提案がありました。また在宅ケアにおけるリハビリテーション専門職からみた改編版 ICF の案の説明があり、身体機能、精神機能を分ける。活動及び参加に「生活」の文字を加える。そして、背景因子の「個人因子」が生活機能の「精神機能及び身体機能」、「環境因子」が「生活活動及び生活参加」にすることでわかりやすくなる。利用者様には、「することによる役割（作業的な役割）」、「いることによる役割（存在の役割）」があり、役割の意識が自分の存在価値を肯定し、ご本人が主体的に取り組み、生活や生きがいに繋がるものを探してしていく事が必要と考えられるとありました。そのためには、開始時のオリエンテーション及びプレゼンテーションスキルが大切であることもお話をされました。

第3部では、調査班より昨年度の実務者研修会の参加人数、管理者養成研修 STEP 3までの終了者数の報告がありました。

次に、逢坂伸子理事より今年度の研修に県行政及び県医師会を実務者研修会に招きパイプ作りをして欲しいとありました。リハビリ 3 職種で 3 協会を挙げて行っているのはこの地域リーダー会議と実務者実行委員会のみであり、これをきっかけに医師会の組織やリハビリの理解を行政及び医師会に広めてもらう事でリハビリを活用してもらうようにしていきたいとの事でした。グループワークも行いましたが、グループ内では行政との関わりはあるものの、医師会とのつながりは全くないとあがりました。内容としては、医師会の考えている地域包括ケアシステムを聴講する等があがりましたが、グループワーク内ではまとまりませんでした。それぐらい難しい事で、自分達では動けないという確認となりました。しかし、ST としてではなく、リハビリとして必要になる事は感じ取ることができました。

今回の研修を通して、利用者様ご本人の声をしっかりと聞く大切さ、利用者様の強み（性格・技能・関心・環境）を活かした生活目標を考える事が生きがいに繋がり動機づけや主体性を引き出すことで、活動・参加に繋がる一つの方法である事がはっきりと理解する事ができました。

千葉県は昨年度千葉県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士推進連携会議を立ち上げました。今後は訪問リハビリというよりは生活期リハビリ、地域リハビリ、地域包括ケアに向けた取り組みが必要になります。地域に向けた人材育成も国から要求されています。地域ではリハビリの参加はいまだ非常に少なく、待っているのではなくこちらから出していく必要があります。もう時間がない事も痛感しました。今回の会議で得たものを実務者研修会実行委員会の活動に活かし、研修がより有意義なものになるよう努めてまいりたいと思います。このような貴重な機会をいただき有難うございました。



施設紹介



医療法人 鎌田病院（市原市）……………高澤 淳也

当院は昭和22年に鎌田内科医院として市原市五井に開設され、現在は一般病床146床、療養病床53床、合計病床数199床となっています。一般病床は内科病棟と外科病棟として運営しており、平成27年には新棟完成に伴い地域包括ケア病床を12床開設しました。今後は47床へと増床し、地域包括ケア病棟として新たにスタートする事が予定されています。また、今年の5月にはMR-Iを導入し、脳血管疾患を始め様々な疾患に対して詳細な画像診断を行える体制が整いました。

リハビリテーション科スタッフはPT9名、OT3名、STは2名の常勤と1名の非常勤で構成されています。STの対象となる患者さんは失語症や高次脳機能障害、構音障害、癌の術後に生じた発声障害、嚥下障害等様々ですが、その中でも嚥下障害に対するリハビリの依頼が多数を占めます。ケースによっては入院・外来問わず嚥下造影を実施し、訓練方法の決定や食事形態、姿勢の検討を行っています。当法人が運営している＜介護老人保健施設アーネスト＞にもSTが勤務しているので、退院した患者さんが入所する際はST間で情報共有を行い、スムーズなリハビリテーションの移行を図っています。当院の理念である「地域に根ざし、地域の役に立つ病院」を実現する為に、今後も更に近隣の病院と連携しながら、地域医療に貢献していきたいと思っております。

医療法人社団曙会 流山中央病院（流山市）……………片山 芳恵

当院は、柏市との境に近い、流山市の東部に位置し、東武野田線「初石」駅から徒歩7分のところにあります。流山市の中でも著しく開発の進む「流山おおたかの森」駅は隣駅です。

昭和53年に開設し、診療科は内科、外科、脳外科、整形外科等、13科にのぼります。2次救急の指定病院でもあり、東葛地域のみならず埼玉県東部からも患者を受け入れています。病床数156床、うち40床は回復期リハビリテーション病棟です。STは主に脳外科からの依頼で、失語症、構音障害、高次脳機能障害、嚥下障害の方に対する評価および訓練を行っています。急性期から回復期、退院後の外来リハビリまで、一貫して関わることのできる環境にあり、隣接する系列のデイケアや訪問リハビリにも携わっています。

リハビリテーション科は、PT22名、OT9名、ST5名が在籍し、一般病棟（おもに急性期と外来）担当と回復期病棟担当に分かれています。急性期は、1～2週間で回復期に転棟となることも多く、業務は主に評価が中心となります。発症直後の不安を和らげることも視点において患者様やご家族に接しています。回復期病棟は、365日稼働しており、在宅復帰へ向けて医師・PT・OT・看護師・MSW等、他職種とも連携しながらリハビリを進めています。STとしては、退院後の生活を視野に入れた長期的な視点をもって訓練を進めていけるよう心がけています。

7年前に発足した「流山失語症友の会」には当初から参加しています。在宅復帰後の患者様との交流は、退院後の生活をイメージできるという点においても有意義です。友の会活動にご興味のある方は、ぜひご一緒に活動していただけたらと思います。

臨床こぼれ話

★★★ 高次脳機能障害患者さんへのご家族支援 ★★★

船橋リハビリテーション病院

住母家 明弓

こんにちは。だいぶ暑くなり、夏風邪を引きやすい季節になってきました。日々の気温の変化や室内の温度差により、室内で生活されている患者さんよりもスタッフが体調を崩してしまうなんてこともよく聞きます。皆さん、体調には十分お気を付けください。

さて、今回臨床こぼれ話のコーナーに執筆を…というお話を頂いたので、今までのリハビリの事を自分なりに振り返ってみました。多くの患者さんを思い出したのですが、同時に、ご家族の支えなしにはリハビリはできなかつたなど感じました。今回はある重度の高次脳機能障害患者さんと家族について、何年たっても悩むことを書かせて頂くことにしました。

数年前担当した患者さんは、交通事故による重度の脳損傷の方でした。前頭葉の損傷が激しく、意識障害が改善してくると、なんとか歩いて口から食べられるようになったものの、情動のコントロールが重度に障害されており、暴力行為が顕著でした。また、コミュニケーションは理解も表出も重度に障害されており、限られた発声のみ。入院生活をするうえで、スタッフの安全に配慮した介助や訓練が必要で、担当に關係なく病棟スタッフ一丸となって試行錯誤して対応した覚えがあります。

ご家族は患者さんの性格変化に戸惑いながらも、入院中は毎日お見舞いにいらっしゃり、患者さんと散歩に行き、訓練を見学し、できそうな自作の教材を作り、リハビリの合間に一緒に行う等とても積極的に関わっていました。

退院後も外来等で時々ご一緒する機会があったのですが、在宅生活は想像以上に大変なご様子でした。デイサービスやショートステイでは暴れてしまい、対応できないと断られることが何度もあったそうです。また、情動を落ち着かせるために服薬を増やすと、介助量が増え、食事もむせが増えるため誤嚥性肺炎を繰り返していました。この様な状況に、奥様は非常に疲れていました。そして、「前々より、夫婦で何かあった際は、延命やそれに準ずる治療をしないと話し合っていたのに、自分が主人を助けてしまった」と自らを責めていらっしゃいました。

それでも、このご家族はアニマルセラピー（乗馬）やディズニーランド等、患者さんの刺激になりそうな場所へ一緒に行かれていました。暴力を受けながらも介助量が変化すればそれに合わせた介助を行い、食事もかなり工夫されていました。このご家族の患者さんへの関わりを見ていると、患者さんもご家族を本当に大切にされていたのだろうと、受傷前の患者さんの人柄が垣間見えた気がします。

さて、こんなにも頑張っているご家族にSTとしてどのような支援をすればよいのか…。安易なアドバイスや頑張ってくださいなんてとても言えません。もう十分に頑張っていますので。結局、この時はご家族の話を傾聴し、生活状況の確認と患者さんの出来る事を探り、可能な一面を引き出す機能訓練を実施しました。ご家族は「こんなに良い反応が見られた」と喜んで帰って行かれたのですが、実際の生活に生かせるとも限らず、ご家族の介護負担感の軽減には繋がらなかったと思います。そして、もっと何かできたのではないかと自問自答が続いています。

このご家族だけではありませんが、重度の高次脳機能障害が残存している患者さんに対し、以前とは

異なる患者さんに戸惑いながらも寄り添い、摸索しながら生活されているご家族はたくさんいらっしゃるかと思います。情けない話ですが、発症からの経過が長いと、ご家族の方が ST より対応がうまいなんてこともあります。そして、この様なご家族に ST として力になれているのかと思うことも度々あります。ST 1年目の時に担当した別の患者さんでは、平日働いているご家族に家族会を勧めたところ、「正直、そこに行く時間があったら寝たいです。」と言われたこともあります。この時はご家族の状況と気持ちを十分に理解できていなかったと深く反省した覚えがあります。

もちろん、患者さん本人が病気や事故で一番辛いとは思いますが、高次脳機能障害の場合、自身の状態を適切に理解することが難しい患者さんも多く、ご家族の方が辛い思いや苦しい思いをする場合も多いですね。この様なご家族をどのように支援していくのか…この答えは 1 つではないと思いますし、答えのない問題のようにも感じます。ただ、常に摸索していくことが重要なのかなと思っています。

医学の進歩による救命率の向上と共に障害の重度化が進み、また、高齢社会により複雑な合併症を持つ患者さんも増えています。その為、ご家族も対応に悩むことも多く、ST として支援することの難しさとその必要性を日々感じている次第です。

三三 きこえに関するひとくちコラム 三三

ASSR(聴性定常反応)

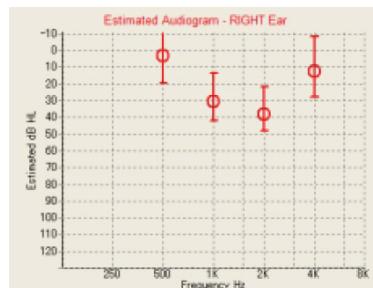
この検査は他覚的聴力検査の一つです。自覚的聴力検査には標準純音聴力検査や遊戯聴力検査などがあり、被験者は聞こえたらボタンを押すなどの意思表示が必要になりますが、この検査は被験者の応答を必要としません。

【検査内容・方法・結果】 電極を前額部・後頸部・眉間につけ、脳波の中に生じる音刺激の反応を得ます。被験者は睡眠下にて実施されます。音刺激は一般的に 500、1000、2000、4000Hz が用いられます。そのため、図のように低～高音域に至る聴力を左右別に測定することができ、おおよその聴力像を推定するのに効果的です。結果の閾値には幅があるため、解釈に注意が必要です。

【臨床応用】 新生児聴覚クリーニング検査後の精査や乳幼児期の補聴器フィッティング、自覚的聴力検査の信頼性が低い方(重複障害や発達障害など)の聴力測定、機能性・心因性難聴や詐聴の判定などに用いられます。新生児期～成人まで実施可能です。

ASSR のみでなく、ABR(聴性脳幹反応)や自覚的聴力検査も含め、多角的に評価することが重要です。

ASSR の結果の一例(右耳)



～聴覚障害委員会～



ワーク＆ライフバランスコラム ～仕事と○○の両立～

毎号掲載が決まり、益々活気づいてきた「ワーク＆ライフバランスコラム」！
さて、今回のコラムはどんな内容でしょうか！？

「目指せ！落語家一番星☆」

千葉県東葛飾障害者相談センター

宮崎 寛夫

『「付け焼刃は剥げやすい」てなことを申しまして、人の真似と云うものはなかなか上手くいかない
ようです』

これは未来の手話落語家のお話です。

時は数年前にさかのぼります。仕事上、手話が必要になり手話サークルで勉強を始めてしばらく経った頃、サークル関連イベントで「手話落語」に出会いました。手話落語とはその名のとおり手話で落語を演じるもので。もともと落語に興味があったこともあり、大いに興味をそそられ期待しながら手話落語を観たのですが・・・なんて表現したらいいんでしょうね。ろう者が手話落語を演じ、会場の職員が演者に合わせて台本を読み上げるのですが、その台本読みがまあひどいのなんの（失礼）。会場の職員に落語家ばりに声を出せというのを酷なことです。そのときに「自分なら手話も落語も上手くできるのでは！？」と、全くもって無謀なことをひらめいてしまったわけです（笑）。

それからプロの落語家の元に稽古を願い出て、今に至ります。稽古開始当初は1つの噺を覚えるのに3ヵ月もかかってしまい、しかも高座では師匠からダメ出しのオンパレード。手話も落語も上手くできると勘違いした当時の自分を叱りたいです（あと、台本読みしていた会場の職員さんに真摯に謝りたいです・・・）。

ちなみに冒頭の台詞は私が初めて稽古をつけていただいた演目「子ほめ」の枕に当たる部分です。まだ手話も落語も未熟で「手話落語」の域には程遠いですが、今後も稽古を積んでいつかは手話落語家として高座に上がりたいと考えています。しかし、手話落語にばかりかまけてSTの勉強が疎かになってきているので、STの知識が「付け焼刃」と言われないようにワーク＆ライフバランスを見直さなければいけませんね。

◇ 事務局から ◇

年会費納入のお願い

*当会の年会費は前納制となっております。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

正会員 3500円 準会員 3000円

賛助会員 1口5000円 (個人1口以上、団体2口以上でお願いします)

未納分について

*本年度は未納ゼロをめざします。平成26年度・27年度・28年度分の年会費のお支払いがお済みでない場合、期日を過ぎておりますので、未納分を合計した金額にてお早めにお支払いください。

本会の規則により、2年以上会費未納の場合は退会とみなされますのでご注意ください。

なお、退会後も未納分は徴収させていただきます。(例:正会員の場合: 3500円×2=7000円)
納入済かどうかご不明な場合や、その他年会費に関するご質問がございましたら、県士会メールもしくは下記までご連絡下さい。

◇◇お支払い方法◇◇

1) ゆうちょ銀行および他の金融機関からのお振込み

◇ゆうちょ銀行からのお振込の場合

払込取扱票に氏名、住所、金額をご記入の上で下記宛にお振込ください

(記号番号) 00120-6-39932

(加入者名) 一般社団法人千葉県言語聴覚士会

◇ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込の場合

(銀行名) ゆうちょ銀行 (金融機関コード) 9900 (店番) 019

(店名) ○一九 (ゼロイチキュウ店)

(預金種目) 当座 (口座番号) 0039932

(受取人名) イッパンシャダンホウジン チバケンゲンゴチョウカクシカイ

2) ゆうちょ銀行口座からの自動引落し

お手続きについては、当会ホームページをご覧ください。

《年会費に関するお問合せ先》

東邦大学医療センター佐倉病院 リハビリテーション部

治田 (はるた) 寛之 043-462-8811 (代)

1. 入会のお誘い

当会に入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにても入会方法をご案内申し上げておりますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらしたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

2. 迷子が増えています～変更届についてのお願い～

最近、迷子になって戻ってくる発送物が増えています。お手数ですが、氏名、住所や勤務先などに変更があるときは、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。変更届の様式は会のホームページよりダウンロードすることができます。ご記入の上、事務所へ郵送やFAXにてお届けください。また、変更届に限ってメールによる受付をしております。会からの情報がみなさまのお手元に無事届きますよう、ご協力お願いいたします。

3. 新入会員のお知らせ (敬称略) 会員数：正会員 391名・準会員 20名・賛助会員:7団体

(平成28年5月29日 理事会承認分まで)

…正会員…

富永 一平 (旭神経内科リハビリテーション病院) 真田 孝子 (さかいリハ訪問リハビリテーション・柏)
高橋 正紀 (我孫子聖仁会病院) 泉 景介 (総合医療センター成田病院)
石神 明香里 (津田沼中央総合病院) 原田 浩美 (国際医療福祉大学)
石渡 登 (東京さくら病院) 内田 信也 (国際医療福祉大学)
岡山 未季 (千葉県千葉リハビリテーションセンター)
岸 孝明 (千葉中央メディカルセンター) 成田 あゆみ (千葉市療育センター)
宮崎 勝也 (塩田病院) 細野 恵理 (千葉県循環器病センター)
高山 亜希子 香川 哲 (玄々堂君津病院)

(届出順)



◇ 県士会リーフレット配布協力先募集 ◇

県士会のリーフレットを配布いただける施設様、研修会・イベント等を募集いたします。県士会の広報活動にどうぞご協力ください！

連絡先

FAX : 043-243-2524

MAIL : chibakenshikai@zp.moo.jp

担当：広報部 宮崎 寛夫

受渡し方法

メール又はFAXに ①氏名 ②所属 ③会員番号 ④連絡先 ⑤郵送先 ⑥配布先（施設名又は研修会・イベント名） ⑦希望部数 を記載の上ご連絡ください。

理事会で承認が得られ次第、郵送いたします（手続きに1ヶ月ほどかかります。ご容赦ください）。

部数

100部まで（100部以上ご希望の場合はご相談ください）。

◇ 県士会活動のお誘い ◇

いつも千葉県言語聴覚士会の活動にご協力いただきありがとうございます。

千葉県言語聴覚士会は、研修会の企画、ホームページによる情報発信、広報誌「ニュース」の発行等、有志の会員の協力の元、さまざまな活動をしております。

もし、よろしければ、会の活動の手伝いをしてみませんか？ ちょっと大変ですが、自分のやりたい研修会を企画できたり、自分の書いた文章がツイッターや広報誌に載ったり、とやりがいがあります。また、活動の合間に先輩方に仕事の相談もできます。

ご興味がありましたら、やってみたい活動や領域をお書きの上、下記連絡先にメールをお願いします。みんなで千葉県言語聴覚士会を盛り上げていきましょう！！

・活動内容

研修会の企画や運営、ホームページ管理、ツイッターの投稿、広報誌「ニュース」発行、会議の書記、職場体験の企画や運営、財務など

・領域

高次脳機能障害、聴覚障害、摂食嚥下障害、小児言語発達障害、介護保険、災害リハなど

他にも、「こんな活動がしたい！」「この分野なら出来そう！」などご意見も頂戴します。

担当：広報部 宮崎 寛夫

連絡先：chibakenshikai@zp.moo.jp

◇ メルマガ配信の登録・解除について ◇

千葉県言語聴覚士会では、会員の皆様にメルマガにて当会からのお知らせの他、研修会のお知らせや他団体からのお知らせ、災害時の情報発信等を行っております。現在登録されておられない方も、是非ご登録いただければと思います。

☆メルマガの登録・解除方法について☆

千葉県言語聴覚士会ホームページ「会員専用ページ」内にメルマガへの参加・退会ボタンが設置しております。メールアドレスをご入力いただき、該当ボタンを押していただければ参加・退会処理が可能となっております。

※「会員専用ページ」には、パスワードが必要となります。本誌最終ページにパスワードが記載されておりますので、ご確認ください。

◇ 理事会・委員会等議事録 ◇

◆ 平成27年度 理事会

《第13回》

日時：2016年3月6日（日）13時00分～16時30分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、阿部、岩本、小野、酒井、平山、治田、宮崎（理事8名）、宮下（監事1名）、書記：阿部

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について・新入会員・退会者について・統計研修会の報告・来年度の認知症専門職研修について・ホームページリニューアルについて・第6回生活期リハ研修会報告書、生活期リハ会計報告・地域リハビリテーション委員会の活動について・生涯学習プログラム作業部会から会計報告・学術局報告書について・摂食嚥下ガイドライン一覧について・後援依頼について・ニュースNo50について・予算書作成について・財務部より・総会について・平成28年度第1回研修会タイムスケジュールについて・千葉県歯・口腔保険計画の一部改定（案）に対する意見について

2. 報告事項：・郵便物回覧

◆ 平成28年度 理事会

《第1回》

日時：2016年4月3日（日）13時00分～17時10分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、阿部、岩本、小野、金子、酒井、平山、治田、宮崎（理事9名）、宇野、宮下（監事2名）、井上（書記1名）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について・新入会員・退会者について・総会について・3協会合同都道府県士長会議について・失語症者向け意思疎通支援者養成事業について・「千葉県手話言語等の普及の促進に関する条例」案について・予算および決算の確認・新入会員向け仕事勧誘について・「見える化」によるTwitterの活用について・地域リーダー会議について・施設見学受け入れのお願い・平成27年度第2回千葉県地域リハビリテーション協議会について・平成28年度第1回研修会タイムスケジュールについて・平成28年度第2回研修会会場について・全国研修会について・旅費等に関する規則の改正について・第5回総会台本について・来年度の総会について・監査報告

2. 報告事項：・郵便物回覧　・コミュニケーション障害学会について

《第2回》

日時：2016年5月8日（日） 13時00分～16時00分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、阿部、岩本、小野、金子、酒井、平山、治田、宮崎（理事9名）、宮下（監事1名）、今泉（書記1名）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について　・新入会員・退会者について　・失語症者向け意思疎通支援者養成事業について　・JRATの動向について　・ニュースNo51構成案について　・高校生向け施設見学会について　・平成28年度第1回研修会について　・千葉県理学療法士会障害児支援班からの依頼　・局員・委員について　・摂食嚥下ネットワーク講師派遣について　・近隣都県養成校宛リーフレット配布の鏡文について　・総会について　・後援依頼について　・ビデオについて

2. 報告事項：・郵便物回覧　・関係団体より連絡等　・報告等

《第3回》

日時：2016年5月29日（日） 10時00分～12時00分 場所：千葉市文化センター 9階会議室

出席者：吉田、阿部、岩本、小野、金子、酒井、平山、治田、宮崎（理事9名）、宇野、宮下（監事2名）、小松（書記1名）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について　・新入会員・退会者について　・総会について　・失語症者向け意思疎通支援者養成事業について　・JRATの動向について　・ニュースNo51について　・局員・委員一覧について　・リハビリテーション公開講座について　・第2回研修会案内状について　・進行性失語の研修会について　・第7回生活期リハビリテーション地域リーダー会議について　・聴覚障害委員会勉強会について　・関東圏の都県士会 会長副会長会議について　・平成28年度日本言語聴覚士協会定時社員総会報告

2. 報告事項：・郵便物回覧　・次年度の総会場所について

◆ 平成28年度 第1回学術局会議

《第1回》日時：2016年5月29日（日） 16時30分～17時00分 場所：千葉市文化センター

出席者：志賀、嶋田、杉崎、關口、露崎、小野、酒井

欠席者：原田

・平成28年度第1回研修会反省　・平成28年度第2回研修会について　・その他

◆ 千葉P.O.S連携推進会議 理事会

《第1回》日時：2016年5月19日（木） 19時00分～21時30分 場所：東京湾岸リハビリテーション病院

出席者：岩本、小野　千葉県理学療法士会4名　千葉県作業療法士会3名

・各士会の今年度の活動計画　・事務局　・会計　・後援依頼　・地域包括ケアに関する人材育成　・C-RAT
・リハ公開講座　・生活期リハ研修会　・県内の地域活動に関するアンケート調査とネットワーク構築事業について

◆ 地域リハビリテーション委員会

《第1回》日時：2016年5月29日（日） 17時00分～18時00分 場所：サイゼリア千葉中央店

出席者：平澤、香川、藤井、岩本

・今年度の活動計画について　・役割分担

◆ 平成28年度 第10回リハビリテーション公開講座実行委員会

《第2回》日時：2016年2月22日（月）19時00分～21時00分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、神作、佐野 千葉県理学療法士会4名 千葉県作業療法士会3名

・テーマ ・実施要綱 ・後援先 ・会計について

《第3回》日時：2016年3月24日（木）19時00分～21時00分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：杉崎、佐野 千葉県理学療法士会4名 千葉県作業療法士会3名

・実施要綱 ・役割分担 ・後援申請書類 ・予算書 ・ちらし ・要約筆記について

《第4回》日時：2016年5月9日（月）19時00分～21時00分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、杉崎、佐野 千葉県理学療法士会4名 千葉県作業療法士会3名

・後援先確認 ・会場確認 ・ちらしデザイン、配布先 ・各士会のブースについて

◆ 平成28年度 渉外部 生活期リハビリテーション合同研修会実行委員会

《第1回》日時：2016年4月26日（火）19時00分～21時00分

場所：船橋市中央保健センター 小会議室

出席者：小野、勝又、辻本

・今年度研修会について

《第2回》日時：2016年5月26日（木）19時00分～21時00分

場所：東京湾岸リハビリテーション病院 5階会議室

出席者：小野、勝又

・今年度研修会について ・地域リーダー会議報告

◆ 平成28年度 介護保険委員会

《第1回》日時：2016年6月1日（水）19時00分～21時00分

場所：サイゼリア アクロスモール新鎌ヶ谷店

出席者：松本、牛山、木村、斎藤、末藤、山崎、小野

・今年度計画 ・研修会について

◆ 平成28年度 高次脳機能障害委員会

《第1回》日時：2016年6月25日（水）19時00分～21時00分

場所：東邦大学医療センター佐倉病院

出席者：治田、鈴木、平山、竜崎、松田

・今年度計画について ・進行性失語研修会について

◆ 平成28年度 災害リハビリテーション委員会

《第1回》日時：2016年5月22日（日）9時30分～11時00分

場所：マクドナルド 常盤平店

出席者：栗林、平山、渡辺

・POS 災害対策関東連合について ・HPへのリンク掲載について ・9都県士合同防災訓練について

（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）

ご協力
お願いします

日本失語症協議会 応援セール

エスコアールの失語症関連製品をご注文の際に日本失語症協議会(03-5335-9756)経由でお申し込みいただくと、特別割引価格でお求めいただけます(個人・法人問わず)。

※請求書等の書類・代金の支払はエスコアールとの直接取引となります。

お問合せ先 日本失語症協議会(03-5335-9756) エスコアール(0438-30-3090)

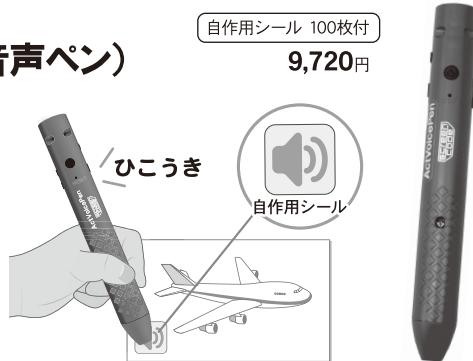
New

ActVoicePen(音声ペン)

ペンでタッチするだけ! 簡単言語訓練!

簡単操作	準備が簡単で、タッチするとすぐに音が出ます。
速度変更	簡単操作で発声速度を変更できます。
録音可能	短い単語はもちろん、長い文や歌も録音でき、自作の絵カードが簡単に作成できます。
小型・軽量	長さ15cm×直径2cm、重さ32gと小型で軽量です。
外部接続	イヤホンやスピーカーの接続ができます。

特長



2016年
8月
発売予定

環境音カード

音声ペン(ActVoicePen)対応の50種類の環境音カードです。環境音カードに対応した絵カード(裏面文字)が付属しています。環境音を聞いてイラストをポイントティングしたり、イラストの名称を話したりする事で、聞く力・話す力を育てます。音声ペンで環境音カードを使用する場合、はっきりした大きい音で聞くために、外部スピーカーの使用をお勧めします。※環境音カードのみでは、音声再生できません。

カード(A7サイズ)100枚(環境音カード50枚、イラストカード(裏面文字)50枚)
文字シート(A5サイズ) / 説明書 / 保管用ポーチ

4,860円



環境音カードセット

環境音カード / 音声ペン / 外部スピーカー 16,200円

New

ActCardイラストシート集S 第1巻

失語症などの言語訓練に! 自習教材にも最適!

A4判 イラストシート30枚(イラスト300種類)
CD-ROM 6,480円

ActCard第1巻300種類のイラストを各シート10種類ずつ印刷しています。別売のActVoicePenでイラストをタッチすると音声が再生されます。失語症者等に訓練を目的として使用する場合や、個人の方がご自身やご家族の言語訓練のために使用する場合は複写・印刷が可能です。

※複写や印刷したものはActVoicePenに対応していません。ActCardイラストシート集第1巻(ActVoicePen非対応)につきましては、継続して販売しております。

よくわかる失語症ことばの攻略本

ことば体操編



著:沼尾ひろ子 B5判 98頁 [全頁カラー] 1,620円
ボイストレーナーによる失語症のための言語発声トレーニング!
自信をもって会話がしたい・はっきりした言葉で話したいあなたへ



日常会話はなんとか話すことができるが、自信を持って話したい……
そんな失語症者にお勧めします。呼吸体操や変顔体操等、さまざまな言葉の体操をカラーイラストでわかりやすく説明しています。失語症以外の、言葉に自信のない方にも取り入れていただける体操です。

言語聴覚療法習得のための必須基礎知識

編・著:山田弘幸
著:阿部晶子 飯干紀代子 池野雅裕 太田栄次 北風祐子 斎藤吉人 福永真哉 吉村貴子 B5判 360頁 4,860円 電子書籍 3,159円
※iBookstoreのみ3,200円での販売になります。

構音(発音)指導のためのイラスト集



株式会社エスコアール

<http://escor.co.jp>
〒292-0825 千葉県木更津市畠畠 2-36-3

TEL:0438-30-3090
FAX:0438-30-3091

企画・監修:加藤正子 竹下圭子
B5判5冊セット 全232頁 7,776円



●上記の商品はホームページから送料無料でお求めいただけます。 ●価格は消費税込です。 ●内容や発売時期は予告なく変更になる場合があります。



水に混ぜるだけ! ゼリーが手軽に作れます。

水分補給に Quick Jelly

クイックゼリー

包装単位: 10g×36



「ひとつちめ」から
幅広く
サポートします。



はやい

水100mLに溶かして30秒間混ぜるだけ。
3~5分後にはさわやかなゼリーができ上がります。

水さえあれば、いつでもすぐに、食感のよいゼリーが召し上がれます。

かんたん

加熱や冷却が不要。
外出先でもベッドサイドでも手軽に作れます。



加熱調理や冷却のための時間がかからず、作り置きスペースも省けます。

食べやすい

均質で飲み込みやすいテクスチャー。

離水がなく、温度による変化もほとんどありません。

テクスチャー: 硬さ・付着性・凝集性など
口腔内で知覚される
食品の物理的性質

カプサイシン入りフィルム状食品 カプサイシンプラス[®]

カプサイシンの力で食事を楽しく!

マンゴー味



特長

- カプサイシンは、トウガラシ(唐辛子)の成分です。
- 2枚で1.5μg(0.75μg/枚)のカプサイシンが摂取できます。
- 舌の上ですばやく溶けます。

使用方法

目安として2枚程度を口の中(舌の上)に入れ、
全部溶けたらお食事をお楽しみください。



包装: 24枚×10



販 売 者

株式会社 三和化学研究所

本社/名古屋市東区東外堀町35番地 〒461-8631

TEL (052) 951-8130 FAX (052) 950-1861

●ホームページ <http://www.skk-net.com/>



編集後記

4月の診療報酬改定で、また色々な書類や手続きが増えましたね。回復期におけるFIM利得のカウント、目標設定等支援管理シートの作製などなど…。10月からの施行にむけて準備でてんやわんやです。事務処理にかかる手間と時間がどんどん増える一方、労働基準監督署からは早く帰るよう指導を受け…。根っこは同じ厚生労働省からのお達しですが、「矛盾してますなあ～」と感じるのは私だけでしょうか…。皆さん、うまく立ち回るすべを是非お教えください（泣）

編集部 平山

発行所:一般社団法人 千葉県言語聴覚士会

発行人:吉田浩滋

編集人:編集部 平山淳一

事務局:〒263-0042 千葉市稻毛区黒砂2-6-15 メゾンK102

FAX 043-243-2524

E-mail chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ:<http://chiba-st.com/> 会員専用パスワード:affordance

印刷:社会就労センター はばたき職業センター